

国立歴史民俗博物館企画展「歴史にみる震災」においてパネル展示と講演をおこないました (2014/3/11～5/6)

場 所：国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）
テーマ：歴史地震津波研究、歴史資料保全研究

2014年3月11日から5月6日まで開催されている国立歴史民俗博物館「歴史にみる震災」において、本研究所から歴史資料保全研究分野、津波工学研究分野、広域被害把握研究分野の研究成果がパネル展示されました。

企画展は、東北地方の歴史上の震災と近現代の震災というふたつの大きなテーマから構成されています。このうち、東北地方の歴史上の震災として、歴史資料保存分野が実施している1611年に発生した慶長奥州地震津波に関する歴史資料『ビスカイノ報告』や『駿府記』への分析が展示されました。また、災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野からは越村俊一教授による1960年に発生したチリ地震津波が太平洋を伝播して日本までの到達過程への分析やシミュレーション画像、津波工学研究分野からは今村文彦教授による2011年の東日本大震災における東北地方太平洋沖地震津波の発生の様子、仙台平野に來襲する津波の様相、太平洋を伝搬する津波の様子についてのシミュレーション映像が展示されました。また、東日本大震災に歴史資料保全研究分野が実施した被災歴史資料のレスキュー活動についてのビデオ映像や、実際にレスキューされた江戸時代の蘭学者・画家である司馬江漢画『江ノ島稚児淵眺望・金沢能見堂眺望図』衝立（仙台市博物館所蔵）が展示されました。

4月19日には、第94回歴博フォーラムにおいて、蝦名裕一助教（人間・社会対応研究部 歴史資料保存研究分野）が「東日本大震災からの歴史資料保存と歴史災害研究」と題して、東日本大震災直後からの被災史料レスキュー活動や保全活動、また1611年慶長奥州地震津波に関する今日までの新たな研究分析について講演をおこない、約200名の参加がありました。また、同日おこなわれたギャラリートークにも多くの参加者があり、災害科学国際研究所による最新の地震津波研究を熱心に見学していました。



写真 左上：津波シミュレーション映像の展示
左下：歴博フォーラム会場の様子
右：歴史資料保全活動のビデオ展示
(写真提供：国立歴史民俗博物館)

文責：蝦名裕一（人間・社会対応研究部門）